

結核臨床研修会報告

地域連携室長 横地 英博

2月23日(日)に公立能登総合病院において当院主催の結核臨床研修会を開きました。結核臨床研修会は結核医療における地域の医療機関相互の連携強化を図り、結核医療の向上に努めることを目的としており、平成13年度から年1回石川県の各地で開催しています。今回は能登中部地区の医療従事者と介護福祉関係者の方々を対象とし、能登中部保健福祉センター、七尾市医師会、羽咋郡市医師会、石川県薬剤師会、石川県診療放射線技師会、石川県臨床衛生検査技師会、石川県理学療法士会、石川県作業療法士会の共催、石川県看護協会、公立能登総合病院の後援をいただきました。当日は晴天にめぐまれ、76名の方の参加がありました。

演題は5題あり、第1演題は能登中部保健福祉センター所長 南 陸男先生から「能登中部保健所管内の結核患者の発生状況について」と題して講演がありました。平成24年結核登録状況では能登中部の罹患率は人口10万対15.1人で全国平均を下回り、漸減傾向であること、新登録中、65歳以上割合と外国出生者割合は全国平均を上回っていること、患者発見の遅れは全国的にみても少なく早期発見がなされていることを述べられました。第2演題は当院の堂下隆内科医長から「結核診断のポイントについて」と題して結核菌、結核感染と発病、結核菌関連検査の基礎的知識から具体的事例にもとづく結核診断のこつの提示がありました。第3演題では土島秀次外科医長から「結核症例の実際について」という題で5例の症例提示がありました。第4演題「良質な喀痰の採取法とその評価について」では多和田行男臨床検査技師長から上手な痰の採取方法と喀痰の品質評価の重要性について説明がありました。第5演題「結核発症時の施設内対応と看護について」では中川かつ枝結核看護院内認定看護師から結核発症時の施設内対応、感染防止対策、結核看護、結核治療、DOTSカンファランスと退院後の対応にいたる流れの具体的説明がありました。最後に参加者全員にN95マスクを配り、正しい装着法とフィットテストを体験してもらいました。

研修終了後のアンケートを一部ご紹介いたします。「発症から看護まで順序立った講演でよかった」、「多くの症例の画像をみることができた」などです。ご意見を参考に今後も結核拠点病院として情報を発信していきたいと思っております。

